

労災事故は減少しています。

☆死傷災害は6名(1.7%)減少し356名となっています。



用語の説明は支部
ホームページ参照!

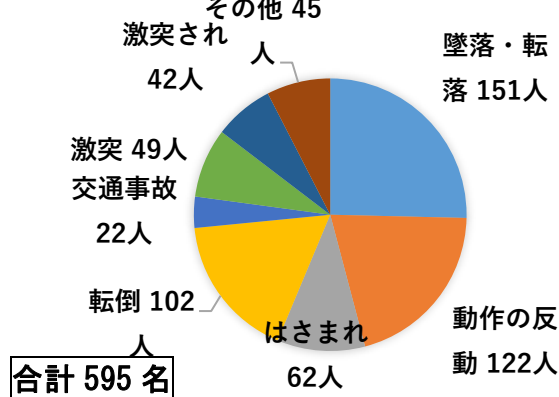
神奈川県労働局の集計によると、令和元年9月末(1月1日から9月30日)における県内の陸運業の労働災害発生は平成30年同期と比較し次のとおりとなっています。

- ◇ 死傷災害は 道路貨物運送業では32名(-10.5%)と減少していますが、陸上貨物取扱業では26名(+44.8%)と大幅に増加しています。
- ◇ 死亡災害は 道路貨物運送業の運転者・運転助手の2名が亡くなり昨年年間と同数です。

1. 概況 (神奈川県内) 陸上貨物運送事業全体 (道路貨物運送業+陸上貨物取扱業)・・・(事故の型ワースト6+交通事故)

事故の型	墜落・転落	動作の反動 (腰痛等)	転倒	はさまれ・ 巻き込まれ	激突	激突され	交通事故	その他	合計
発生件数	151	122	102	62	49	42	22	45	595
対前年増減	+11	+19	-18	+15	-1	+9	-11	-44	-20
同上増減率	+7.9%	+18.4%	-15.0%	+31.9%	-2.0%	+27.3%	-33.3%	-49.4%	-3.3%

陸上貨物運送業全体



陸上貨物運送業全体の発生状況

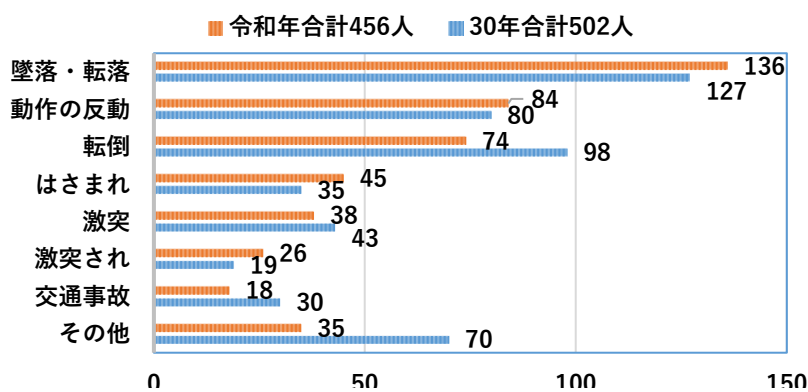
基本操作・行動の励行を!

- ◎ 死亡災害 (2名発生 下記3死亡災害発生概要 参照)
 - ① トラック運転者が道路を歩行中乗用車に轢かれた。
 - ② ターレーを運転し、エレベーターに乗り込む際、降りてきた扉に頭部を激突した。
- ◎ 死傷災害
 - ① はさまれ・巻き込まれ災害が+81.0%増加し38名となった。
 - ② 転倒災害は、道路貨物運送業で-35.9%減少したが、陸上貨物取扱業では+35.7%も増加している。

◎ 昨年に労災事故が過去最多の件数になった危機的状況を労使で共有し、荷役作業を中心にあらゆる対策を講じて労災事故を撲滅しましょう

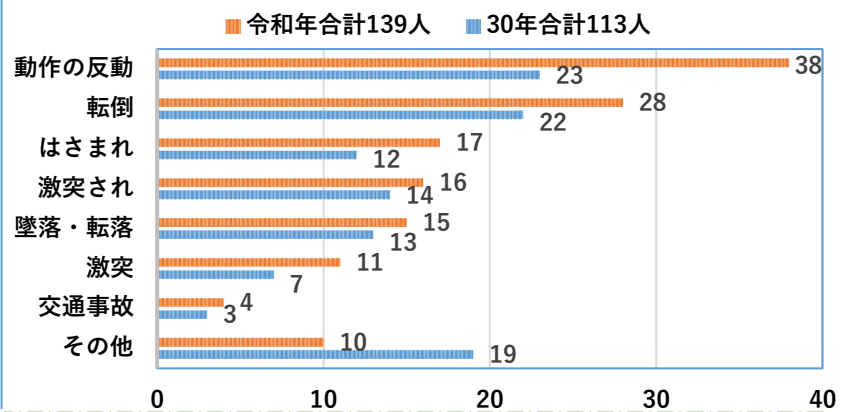
2. 各業種の概要

道路貨物運送業



- ☆1 昨年同期に比べ-10.5%(-32名)と減少して272名となっている。
- ☆2 転倒が-35.9%と大幅に減少している。
- ☆3 はさまれ災害が+93.3%と大幅増加となっている。

陸上貨物取扱業



- ※1 昨年同期に比べ +44.8%(+26名)と大幅増加している。
- ※2 動作の反動(腰痛等)が+133.3%(+12名)も激増している。
- ※3 転倒災害が+35.7%(+5名)増加している。

3. 死亡災害発生概要 (陸上貨物運送事業関係)

陸災防神奈川県支部収

番号	発生地	年月日 曜日 時刻	事業の種別 労働者数 職種	起因物 事故の型	発生概要
1	横浜市	31.1.21 (月) 17時頃	道路貨物運送業 1~9名 運転者	乗用車・バス・バイク 交通事故	運転業務が終わり会社の駐車場から道路を歩いて事務所に報告に戻る途中に乗用車に轢かれたもの。
2	東京都	31.4.8 (月) 0時頃	道路貨物運送業 30~49名 運転者	その他の動力運搬機 激突	ターレット式構内運搬自動車を運転してエレベーターに乗り込む際、エレベーターの扉が下がりきる前に乗り込もうとして加速したが、間に合わず、扉の下端に頭部が激突したもの。